

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年 3月 1日

事業所名：呉本庄つくし園

			はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・子どもたちが過ごしやすように工夫している。 ・各クラス工夫しながら設定したり、活用している。（遊戯室の利用が重ならないように） ・狭く数もぎりぎり、療育内容によってそのつど配置を大幅にかえているので、余裕ができれば提供できる回数が増やせる。	・子どもさんが活動しやすいよう、配置や導線を工夫して、スペースの調整を行っていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		・定数以上配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・トイレ、手洗い歯磨きが一緒になっているので、清潔に保てない。	・細かなところにも、目配りができるよう、職員同士で声を掛け合って衛生管理に努めていく。
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者等評価を参考に、改善に努めていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報ホームページ等で公開している	○			・今年度も、保護者の方へは資料配布する。 ・ホームページでも公開する。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	○		・月に1回職員研修を実施している。 ・このような状況でも、WEBを使って研修を行えてありがたい。	・今年度は、オンラインでの外部の研修にも参加したり、実施した。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○			・アセスメント方法の見直しなどを行い、今後も根拠に基づいた支援が行えるように、個別支援計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・適応行動の状況をはかるためのアセスメントツールの導入が必要と思うが、まだできていない。 ・検査などしているが、行動を見るものは、これからしていけたらと思う。	・4月～5月にかけて発達検査等を実施し、日々の子どもの行動を観察したり、保護者の方からの情報などから評価している。 ・適応行動の状況を図るための標準化されたアセスメントツールを導入する。
	11	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内もの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			・支援計画の見直しを行い、家族支援、地域支援の内容等について検討し、家庭で取り組めることとして、個別支援計画に記入している。今後も子どもさん、保護者の方のニーズに沿いながら、個々に合わせた支援計画を作成していきたい。
	12	個別支援計画に沿った支援が行われている	○			
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・努力しているができていない面もある。	・子どもたちが楽しんでできる活動を、色々考えていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	○			
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・細かいところまでしっかり打ち合わせをし、スムーズに動ける努力をしている。 ・子どもたちが来てバタバタしてしまわないように、確認の打合せを行っている。	・毎朝、その日の活動や、職員の動き、役割や、注意点などの確認をしている。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・気づいたことを伝えあい、すぐに改善するように努めている。 ・どこでどのような事があったのかということを、共有して次の療育に生かしている。	・子どもたちが帰った後で、クラス職員で振り返りを行い、改善に努めている。 ・情報や注意点などは職員間で共有している。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて対応している。	
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて行い、スタッフ間で情報を共有するようにしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・放課後デイを利用している子がほとんどなので、学校に限らず、子どもが過ごす場所へ園から発信していくことが必要だと思う。	
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・必要に応じて対応できる連携をとっています。	
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・研修という点では、不十分と思う。 ・入園される前に様子を見に行ったり、情報共有している。	
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・交流保育を行っている。 ・コロナで、交流会数は減っている。 ・今年はコロナであまりできなかったが、計画はしていた。	
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・担当者が参加している。	
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・おたよりや個別指導を中心に行っている。	
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・個別指導の中で保護者支援を行っている。 ・CAREを行う予定だったが、コロナで延期となりできていない。 ・プログラムとなると不十分かもしれないが、保護者が家庭でも取り組めるよう、一緒に考え実践できている。 ・個別支援計画を立てる際に「家庭での取り組み」として、できることを一緒に考え行っている。 ・企画予定あり。	・プログラムとしての家族支援は、まだできていないが、保護者研修や懇談、親子での個別指導などで、家族を支援することは行っている。 ・外部講師を招いての家族支援プログラムを計画しているが、まだ実施できていない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・療育説明会などを通して行っている。	
	32	児童発達支援ガイドラインの「個別支援支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	○		・療育説明会などを通して行っている。	
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・個別指導の時に話す時間を設けたり、必要に応じて個別に話を聞く時間を設けるようにしている。	
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・コロナで園内での活動ができなかったが、WEBで開催されていた。 ・保護者さんが頑張っているというイメージです。(今の時期、園で開けない) ・保護者の皆さんが集まるという形では難しい状況があったが、どのように保護者会活動を行うかということについて、相談を受けたり別の方法などの提案をさせてもらった。	
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・必要に応じて迅速に対応している。	
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・園だよりを毎月発行。	
	37	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・準備されたツールを使うことはできていますが、必要時にその場で書く(描く)支援がもう少しできたらいいと思う。	・保護者の方にも、状況に応じて、口頭だけでなく、紙面で情報を伝えるようにする。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・今年度は行っていないが、夏祭りは例年地域の方も参加している。 ・今年はコロナの関係で難しいことが多かった。	
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアル策定はできています。 ・マニュアル作成はしているが、保護者に周知できていない。 ・避難訓練は、月1回しているが、水災害による訓練の実施が年1回でも実施できればよいのではないかと。	・マニュアル等については、療育説明会で保護者の方に伝えているが、周知されていない方もいるので、周知の仕方を検討していきたい。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・月1回避難訓練を行っている。	・園だより等で、訓練の実施の様子や避難場所についても、定期的にお知らせしていきたい。
	42	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・服薬等、変更があった場合も職員間で確認している。 ・定期的に保護者に様子を確認し、大きく変化があるようであれば、全体に共有している。	
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・指示書を提出してもらい対応している。	
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・回覧している。 ・事例集の作成はしていないが、ヒヤリハット報告を行い、早急に回覧し情報共有している。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・月1回確認できている。 ・年1回全員で研修を行っている。	・虐待についての自己評価や全職員による研修を実施し、虐待につながらない風通しの良い職場でありたいと考えている。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		・バスの乗車時、本人の負担が少なく、かつ安全な方法を話し合い対応している。 ・身体拘束をしないように全体で対応を考えている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年 3月 1日

事業所名： 児童デイサービスつくしんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数に対してのスペースは確保されており、物理的構造化により、狭くなっているところがある。	活動内容によって、親子での活動スペースが確保できるように検討していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		丁寧な支援ができる職員体制をとっている。	このままの職員体制がとれるように努めている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達の状態や特性に応じて、空間が構造化されている。また、市民センター内ということもあり、バリアフリー化がなされている。	子どもや活動内容に合わせて、必要なスペースやエリアを工夫していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、消毒清掃を行っている。	今後も感染対策を徹底していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○		職員全員で具体的な取り組みを考え、結果について共有し、必要があれば更に改善することをくり返し行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意見を実直に受け止め、職員で話し合う機会を設け、対応についても検討している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報ホームページ等で公開している	○		HPにて公開している。事業所内にも掲示している。	
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	○		月1～2回の研修会を園及び、事業所内では職員持ちまわりで行っている。	1つのことに特化せずに、幅広く学べるように取り組んでいく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○		保護者のニーズをもとに、今の発達段階に沿った支援の視点で作成している。	ニーズをくみ取れる力や子どもの発達状況や特性を理解できるようスキルアップに努めている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・個々の実態を把握するための聞き取り、独自のアセスメントを行っている。 ・他機関で行った検査結果を参考にしている。	アセスメントシートを定期的に見直し、改善する。
	11	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内もの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		本人支援については、具体的な目標設定を行っている。また、家庭でも取り組める視点を盛り込んでいる。	家庭や地域の中で取り組める内容を支援計画に取り入れる。
	12	個別支援計画に沿った支援が行われている	○		毎日、職員間で確認し、療育を実施している。	
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ポイントになる視点を確認し、全体で共有した上での立案」になっている。	
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に合った製作を工夫している。遊具やおもちゃ等を定期的に入れ替えている。	
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している	○		ゲームなどの遊びを通して、小集団での活動を行っている。	子どもの発達状況に応じた集団活動のプログラムを考えていく。
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、細かく打ち合わせをし、職員の役割分担を決めている。	
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		気になることや、保護者からの様子等を記録したり、職員で話し合ったりしている。	全体の場合だけでなく、気付いた時に声を出していく。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		気づいたこと、保護者からの相談内容、次回行いたい勉強内容など毎日記録している。関係機関とのやり取りも記録している。	
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月毎に保護者のニーズを聞き取り見直している。保護者の相談・要望があった時は、随時対応をしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議に参加後、全体で情報を共有している。	
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて関係機関と連携をしている。	
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者・利用児の在籍している園からの要請があれば、必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		今年度はコロナ禍のため回数は減っているが、専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	交流する機会は基本的に設けていない。	
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		基本的には児童発達管理責任者が参加し、その後情報を共有している。	より積極的に参加していく。
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		コロナの影響により、以前と比べ頻度は落ちているが、感染対策をとりながら話す時間の確保に努めている。	感染対策を取りながら、機会を増やす。
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングの形はとっていないが、保護者と情報交換をする場を設け、保護者の対応力の向上を図っている。	
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			的確な説明が出来る職員を増やす。
	32	児童発達支援ガイドラインの「個別支援支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	○			より分かりやす伝え方ができるように努める。
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			適切な助言や支援が出来るように職員の質の向上を心がける。
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナ禍のため、保護者会等の活動は行えていない。	コロナの感染状況をみながら、実施を検討する。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		行っている。	
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	日程や連絡事項についての掲示は行っている。	
	37	個人情報の取扱いに十分注意している	○		守秘義務についても職員研修等で周知している。資料等は鍵付きの棚に保管している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		コミュニケーションブックや視覚情報を活用したコミュニケーションを図るようにしている。	引き続き、相手の方に配慮した支援を行う。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	市民センターで開催される催しに参加し、事業所内でイベントを行っている。	コロナの感染状況をみながら、市民センター内での催しに参加する。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルは掲示しており、年2回市民センター全体での避難訓練に参加している。怪我等が発生した際の連絡体制等は事務所に掲示している。	訓練の実施状況を知らない保護者もいるため、周知の仕方を工夫する。掲示場所の改善等。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		市民センター全体での訓練に参加している。	様々な災害に備え、事業所内で出来ることを検討する。
	42	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		一覧にまとめ、職員全員で共有している。	状況や必要な対応を定期的に確認する。
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーのある児には指示書を提出してもらっている。アレルギー表を作成して、誤飲食のないよう気をつけている。	
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		何かあった時にはすぐに作成し、回覧、報告を行っている。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回、園全体での研修を行っている。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		身体拘束についての共有意識は、職員研修で行っている。危険が伴う場面では、瞬間的に動きを止めることはあり、状況を保護者に報告している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。